

第 62 期定時株主総会 質疑応答集

Q. 社外取締役への期待について

A. 当社の事業規模はこの 10 年間で大きく向上したが、さらなる成長に向けて、社内取締役による半導体業界における専門性ととともに、社外取締役による、外部からの視点や多様なスキルがさらなる企業価値の向上に寄与することを期待している。

Q. ブランディング活動について

A. スポーツには、夢と感動を与える力があると考えており、アスリートが自身の技術と精神を磨き世界ナンバーワンを目指す姿は、当社の価値感と共通する。半導体の重要性が認知され、当社の果たす社会的な役割は圧倒的に高まり、ステークホルダーからの期待も高まっている。スポーツ広告などのブランディング活動を通じ、当社のロゴや社名がでることで、当社の事業活動をより効果的に社会に伝えられるとともに、海外を含む採用活動にもプラスの効果を与える。また、株主さまやお客さま、社員とその家族が当社の社名やロゴを見て喜んだり誇りに感じてもらえたら嬉しく思う。

Q. 株式分割について

A. 株式分割については、株主さまとの対話における様々な要望に寄り添いながら、東京証券取引所のガイドライン、株主構成、市場の動向や株式の流動性等を踏まえ、適切に判断していきたい。

Q. 2050 年の半導体市場（3rd Wave）に向けた当社のさらなる成長について

A. お客さま、サプライヤーとの信頼関係の中で、世界ナンバーワンを目指す。その実現に向け、当社のコアコンピタンスをしっかりと伸ばしていくことが重要。当社の技術が活かされ、継続的な技術革新が期待でき、市場の拡大が見込まれるエリアに付加価値の高い製品とサービスを提供していく。また、当社は世界最大の装置出荷実績があり、本年中に 10 万台に到達することが期待できるが、AI やデータサイエンスも活用し、納入した装置がさらなる価値を生むようなアドバンストサービスなども展開していきたい。

Q. ラピダス社について

A. 重要なお客さまの 1 つとして、他のお客さまと同様に、信頼関係のもとでベストなサービス・セールスを展開していきたいと考えている。なお、資本提携関係は一切ない。

Q. 研究開発について

A. 当社の研究開発は、お客さまと数世代にわたり共有する技術ロードマップをベースに決定しており、研究開発投資に対する利益の獲得力は、外部からも評価いただいている。引き続き、当社の成長ポテンシャルを最大限取り込めるよう、将来お客さまが必要とする技術をしっかりと見極め、ヒット率の高い研究開発をしていきたい。

Q. 中国装置メーカーの脅威について

A. 中国の国策や規制等の影響により、中国国内における中国装置メーカーのシェアは拡大するかもしれないが、市場全体で見ると、中国エリア以外のほうが大きい。また、半導体市場において、今後大きく伸びていくのは最先端エリアであり、世界をリードする技術革新力を常に持ち続けることで、世界における当社のシェアはさらに高めていけると考えている。

Q. ジョセフ・クラフト取締役の選任経緯について

A. 指名委員会では、社外取締役として、半導体の事業以外の幅広い産業界等での知見・経験をお持ちの方を候補として考えている。クラフト氏については、特にグローバルのネットワークをお持ちであること、各国の政策や地政学リスクに精通されていること等から、候補者とさせていただいた。

Q. 市場成長の見通しについて

A. 半導体製造装置市場は需給バランスやマクロ経済の影響による変動はあるものの、将来的に大きく伸びていく。今年は昨年と同水準であるが、来年は、さらなる需要拡大が期待できる分野もあり、年度で見ると前年比 10%以上の成長を予測している。

Q. データサービスプロバイダーとの取り組みについて

A. 半導体のアプリケーションの多様性により、お客さまのお客さまからの問い合わせも増えている。多様な半導体のニーズや技術革新に貢献していきたい。